



ぶどうの枝

2020年
春号

天が地よりも高いように… (15)

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

前回、私は札幌三育小学校で起きたことを書きましたが、次に北海道生活そのものについても触れておきましょう。札幌は、ほぼ半年ほど雪に覆われている所です。それだけに道内野菜、果物が飛び切り美味しい。春を迎えると一斉に花が咲きます。その北海道では地区長としての思い出もあります。私は前任地の静岡では、山地宏牧師（現教団伝道局長）と協力して健康伝道に励みました。この北海道では何をしたのか？と問う時にやはり心に浮かぶのは健康集会です。「NEW START」プログラム集会をほぼ毎年持ちました。北海道には、先に書きましたように豊かな食材があり、広くて安いキャンプ施設もあります。まさに宿泊集会には絶好の環境なのです。

ですが、静岡での土台がなければ北海道にもそのようなプログラムをもって来ることはなかったと思います。さらに宿泊集会で思い出すのが、キャンプミーティングと呼ばれる合同集会。ところで北海道に着任して最初のキャンプ集会で忘れられない光景はホテルのロビーのTVで見た有珠山大爆発。それに合わせ私の頭も爆発？世話役牧師として大切なものを持参し忘れしました。それは背広です。これには困りました。ホテルの機転によって、ホテルマンの方が持っていた背広をお借りしました。が自分に似合っていたかどうか…。私は時々、礼拝時に背広を忘れるという夢を見ます。このキャンプがその夢のきっかけになっているのかも知れません。北海道の自然、野草

のふきの大きい事。トトロの傘のような葉の大きさです。それでいて柔らかで美味しい。北海道はすべてにおいてスケールが違います。雪はパウダースノー。静岡から札幌に「行きたくない！」と願っていた私でしたが、行ってみれば雪かき以外は、楽しい

思い出が満載。さらに一つ、私は北海道では「遊ぶ牧師」という経験も積みました。雪が降れば「スキー」、雪が解ければ「パークゴルフ」。これらを宣教プログラムに組み立てます。教会に来ていない方々でもこういうプログラムですと、人は集まりとても親しくなれます。「遊び」も悪くないものですね。こうして初め「いやだな」という所は、後で「よかったな」という経験が待っていることを学びました。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ書55:8,9節）



安休日礼拝前に
礼拝堂ステンドグラスと
お花を背景に微笑む
磯部牧師

SDA千葉キリスト教会 マラナ・タ19 (秋季) 講演会

2019年11月4日から11月14日に亘り、『キボウのトビラIV講演会～メイン・テーマ「信仰、希望、愛」～』が、千葉教会磯部牧師と8名の教会員によって行われました。講演題、講演者氏名などは、下図、写真をご覧ください。

講演者の講演の内容、講演後の感想などを「ぶどうの枝春号2020 (今回号)」に掲載いたしました。それぞれが読みがいのある内容と思います。是非ご一読ください。

ご興味、ご質問等ございましたら、お気軽にSDA千葉キリスト教会にお越し頂き、講演者本人と直接お話し下さい。

⑥死に関する感懐し
11/10(日) 13:30
平山 浩

③アダムとイブ
11/6(水)13:30
太田博司

④イエス・キリストとは
11/9(土)午前10:30
磯部豊喜牧師

⑧天の大争闘
11/13(水)13:30
井本良治

⑨人生の終活
11/14(木) 13:30
渡邊 邦男

②迷いから確信へ
11/5(火)13:30
西岡清子

⑦キリストの再臨
11/12(火)13:30
渡邊治子

①私と神様の出会い
11/4(月) 13:30
永島佳世子

⑤約束された天国
11/9(土)13:30
砂長谷和子



「私と神様の出会い」

千葉キリスト教会 永島 佳世子

私と神様との出会い。それは母を通してでした。

私がまだ中学生の頃、弟ばかりを可愛がる母を見て「母は私のことが嫌い。愛されていない。私がいなくてもいいのでは？」と思っていました。それを告白した時に母が涙を流しながら「あなたのことを愛している」と言ってくれたのを今でも覚えています。その言葉が嬉しくて、苦しかった心が少しだけ、楽になりました。

そして母がイエス様と出会い、教会に通うようになり、バプテスマを受けました。母は教会へ行くようになってから、とても輝いて見えました。まるで別人になったようで何が母をそんなにも変えたのか、不思議でした。

その後、軽い気持ちで始めた聖書研究で母を変えたのがイエス様だった事を知りました。気が付くと私は何度も聖書研究に通うようになっており、御言葉の一つ一つが心の奥に響いていきました。

そして、十字架の愛を知った時、とても申し訳ない気持ちになり、こんな私の為に死なれたイエス様に感謝しました。

その時、私には愛が無い事を知りました。なぜなら私が神様を知らなかったからです。それと同時に、イエス様が人々を愛されたように、私も愛するものになりたいと思うようになりました。たくさんの御言葉に触れているうちに神様の子供になりたい。バプテスマをうけたいと思うようになっていきました。

「バプテスマはゴールではなく、スタートです。」

こんな言葉を聞いたことがあります。私はスタートして20年近く時が過ぎましたが、信仰の道をいつも真っすぐに進んでいるわけではありません。時に間違った方向

へ進んでいたり、神様に背を向けようとしていたりします。日々の忙しさを言い訳にして祈ることを忘れてしまうこともあります。でも、そんな私を神様は見捨てず、正しい道へと導いてくださいます。

私はこれからもしっかりと神様につながってられるよう歩んで行きたいと思っています。願わくは、その道を私の息子や主人と共に歩みたいと思っています。

神様に会う方法は人それぞれ違います。私が神様と出会ったのは母の影響が大きいです。一人として同じ人はいないでしょう。

自分に罪があることを認めること。それがどれほど怖くて勇気のいることか。

私はそれを認めることが出来た時に、楽になれました。

イエス様は扉の前で立って待っておられます。

イエス様の方からその扉を開けることはできません。しかし、その扉が開くのをただひたすら、待っておられます。

皆様が、皆様の心の扉を開け、そしてイエス様の扉が開き、皆様がイエス様と会うことが出来ますようお祈りしています。



『講演「迷いから確信へ」』を通じてお伝えしたいこと

千葉キリスト教会 西岡 清子

講演会2日目の講演が私。私の役割を考えたとき「聖書を開くことをおすすめしよう」と思い至りました。聖書は人類に与えられた神様からの大切なメッセージです。私が今日まで、導かれ、神様を信頼するに至った歩みが参考になればと思います。

私の幼いころの我が家は、父の短気な性格と母の気位高くナイーブな性格のゆえ、緊張感ただよう暗めの空気でした。波風が立たないように大人しくしていましたが、子供ながら孤独感、不安感を抱えていました。

そのような私ですが、中学校で聖書と讚美歌に出会い、創り主なる神様が全ての上におられると知ったとき、言い知れない平安を得ることが出来ました。イエス・キリストは偉大なお方、指導者でした。

その後20年程経った頃、「エホバの証人」と出会いました。しかし、理解できず悩み、「真の神様がおられるのでしたら、神様、聖書を教えてくれる教会を示してください。」と祈りました。不思議な導きによって、この教会に来るようになりまし

た。しかし、まだ自分の物差しが正しいとする、自己満足的なものでした。

そんな中、突然わが子に深刻な病が襲いました。必死に祈る日々。聖書は「信じよ。」「悔い改めて、主に立ち帰れ。」と言われる。私は「従いますから、見捨てないでください！」とイエス様の衣の裾を掴む思いでした。聖書の示す創り主、救い主の神様を信じて祈りました。

後日、このことは、私に対する試練だったと気付きました。創り主、救い主である聖書にしめされた神様の他に神はないと認めつつも、疑い、躊躇する私であったことを神様は全てご存知でした。

それからは、学ぶことを喜べるようになりました。疑い、躊躇する者から信頼するものに変えていただいた気がするのです。

多くの困難が世界を覆っています。一人一人の人生にも終わりがきます。間に合ううちに、聖書を開いて、神様の愛、将来の約束を知って、平安を得ることは、最も大切なことだとお伝えしたいのです。



「アダムとイブ」の講演を終えて

千葉キリスト教会 太田 博司

マラナタ・19（秋季）講演会が、今年の11月4日から14日の間行われました。

私は、11月6日に「アダムとイブ」という題で講演をしました。

私の講演をきっかけに聖書に親しんで欲しいという思いから、聖書を題材とした絵画を紹介しながら、お話をすることを思いつきました。

そこで、バチカン市国のバチカン宮殿内に建てられたシステイーナ礼拝堂の天井に描かれた天井画を紹介しました。

それは、有名な彫刻家であり画家でもあるミケランジェロによって描かれたものです。話の流れに合わせて、天井画の中から天地創造、アダムの創造、イブの創造、そして最後の審判の絵を紹介しました。

これらの絵画は、私が想像していたのとまったく違う強烈なイメージでした。偉大な芸術家であるミケランジェロの絵から全能の神様のエネルギーを感じたからです。

絵画はさておき、私が聖書を読んで感じていることは、聖書は、事実を簡潔に述べて書かれていて、解説とか理由とかはほとんど書かれていないということです。

ですから、読んでいるうちに疑問がたくさん出てきます。例えば、神様はなぜアダムを創造したのかです。イブの創造の理由は、書かれています。「主なる神は言われた。『人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。』」（創世記2章18節 新共同訳）

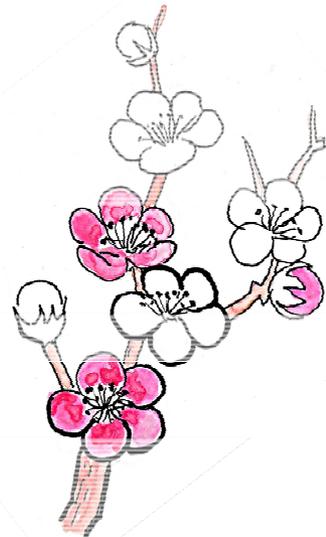
また、なぜ蛇に誘惑されないような強い人間を創造しなかったのかと次から次に疑問がわいてきます。つまり聖書はそういう書物なのだと思います。聖句の行間に現れない隠れた真実を探りながら、神様の意図を正しく理解する必要があります。それに

よって信仰がより確かなものとなるのだと思います。

有名な小説が、脚本家や監督によって映画化されたり、テレビドラマ化されたりします。その結果、まったく小説とは違う愚作だったり、小説家の意図したとおりの名作だったりします。

自分で聖書を読んだときに、まったく理解できなかつたり、間違っって理解することがあると思います。何度か読み返したあと理解できたり、また数年後に読んだらまったく違った理解になるかも知れません。

しかし、それは聖書を読んだその時に、その人だけに与えられる神様の特別なメッセージだと思います。



「イエス・キリストとは」

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

今日はイエス・キリストは誰かという話です。この世界には、これまでに歴史の中で多くの人々が生まれ、その生涯を送って来ています。イエス・キリストもその一人ですが、とてもユニークな人生を送っています。イエス・キリストについて、「超能力者、天才的思想家、預言者、宇宙人…そして神の独り子」など様々な受け止め方がなされて来ました。

本当のところ彼は誰なのでしょう。聖書からその事実を探っていきたいと思います。まずイエスは、家畜小屋で生まれました。少年時代のことは多く記されていませんが12歳の頃、神殿の学者をうならせる話をしたという記録があります。30歳に、家業の「大工仕事」をやめて洗礼を受け、公に姿をあらわし神の国を知らせる説教者になりました。そして人々から忌み嫌われている人の友になり、病気の人を癒されます。また常識はずれの多くの奇跡をおこなった人でした。たとえば死人を生き返らせることもなさいました。

ところが12人の愛弟子のひとりから裏切られ、キリストに敵対する人々によって逮捕され不当な裁判にかけられ、十字架につけられ処刑され墓に埋葬されます。その後、生前に予告していたように3日後に復活されます。死からよみがえった後、40日間多くの弟子たちと交わり「私は再び来る」という再臨の約束をされ、雲に包まれて天のかなたに昇って行ったと聖書にあります。

ここでイエス・キリストの不思議な点を三つほどあげてみましょう。一つは「歴史を越え、民族を超えてこれほど多くの人に信じられた人はいない」こと。

社会運動家で有名なマハトマ・ガンジー

は、「キリストの静かな姿、あれほどまでに、忍耐強く、やさしく、愛に満ち、そしてこのしられ、ぶたれても復讐することなく、もう一方の頬を向けよと、弟子たちに教えたゆるしに満ちた人格は、完全な人間の美しい実例だと、私は考えていました」と語ります。

「キリストの御もとに来る人をイエスは、誰一人『自分は神の愛と守りから締め出されている』と感じさせることはありませんでした」と、著名な宗教家は述べます。

二つ目の不思議は、「その人生はお生まれになる前から預言された生涯だった」ということ。

旧約聖書に「彼」のことが332カ所予告され、それがその通りに成就しています。例えばダニエル書9章25、26節に、エルサレム再建の命令がなされて483年後に彼は登場し、その後AD31年に死ぬとの予告がありますが、その通りになりました（一日一年の預言解釈法則を適用）。また彼の母親が処女であるとイザヤ書7章14節に予告され、マタイ1章はその事実を記録しています。

三つ目の不思議は、キリストが「私は神と等しい者である」と言われたということ。これはキリストが十字架にかけられた大きな原因の一つです。

聖書の結論を申しませう。イエス・キリストは100%神と等しかったが、100%人間と等しい者になられたユニークなお方です。それゆえ聖書は「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下の誰にも与えられていない」（使徒4：12）とあります。

あなたはこのことを信じてみませんか？

「約束された天国」の講演を終えて

千葉キリスト教会 砂長谷 和子

わたしたち教会はキボウのトビラⅣとして、2019年11月4日から14日まで2週間変則的な日程ですが9日間の講演会を開催しました。キボウのトビラ講演会のテーマは信仰・希望・愛です。

聖書には愛について記されているところが聖書語句索引によると旧約・新約合わせて、愛の文字使用のところは158ヶ所ありました。なかでもコリント信徒への手紙一13章4節「愛は忍耐強い、愛は情け深い、ねたまない、愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない、」13章13節、「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である」とあります。

信仰・希望・愛がこの講演会を通して、私たちの心にはぐくみ、愛の増し加えられる時間になればと願いました。

私が講演する日の安息日礼拝でのメッセンジャーは磯部牧師でした。当日の午後私がメッセンジャーとして講演を致しました。講演する私は特別な講習や学びをしたものではありません。一人の人間として、聖書を手にした感動をお話したいとの思いで講演をしました。

神様、聖書との出会いは私にとっては、人生最大の出会いであったといっても過言ではありません。神様はこんな私のような罪深い者を選びだし、神の子として招いてくださいました。ヨハネの第一の手紙4章10節には「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」と記されています。

30歳で上京し45年以上が経過します。30代後半に、聖書に出会うこととなり、私の人生を大きく変える出会いをしました。生きる意味、人生の目的、死後どうなるのか、聖書は座右の書です。人間はどんな人でも生きる意味を探し続けているのではないのでしょうか。近くの方と共に聖書通信講座「真理の道」や「確かな明日をめざしてアドベンチスト」「教理講座」「なぜバプテスマですか」を学びました。

マタイによる福音書7章には「求めよ、そうすれば与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見出すであろう。門をたたけ、そうすれば、開けてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」とあります。

イエス・キリスト様がわたしたちの罪のために十字架にかかり尊い血潮を流され、息をひきとり、三日後に復活されました。今なお、天の神様の右に座して、私たちのことを守り、導いて下さっています。

天地万物の創造主は聖書の神様であることを知り、納得できました。真理、つまり聖書とは、人の心の疑問を解き明かすものであると信じていくことになるわけです。

昨秋の講演会に、「約束された天国」について学びお話しすることになり、自分自身の信仰を極める良い体験をさせてもらい、本当に感謝しております。

「神は愛である」「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」このように素晴らしい神様のみ言葉をこれからも大切して、読み、読み合い、守り、従っていきたくと心から思いました。

「死に関する惑わし」を明らかにする

千葉キリスト教会 平山 浩

私達は、死という現実に向き合うとき、人生や生活のその先に希望を見出すことができるでしょうか。

私達の教会ではイエス・キリストが再びわたしたちのもとに来てくださり、再び来られたイエス様が死者を復活させてくださると信じています。

死者は、イエス様が来られるまで、どのような状態で復活を待っているのでしょうか。私達は、このような死やほかの問題について、唯一、信頼できる情報を引き出すことができるのは、聖書であると信じています。

聖書は、私達が死に直面する時に、希望と確信を持って死と向き合う方法を明確に示してくれています。

聖書には罪を犯した人間は死ぬ存在だと書かれています。罪とは神様の教えに従わない性質のことを指しています。

では、聖書は「死」をどのように教えているのでしょうか。聖書は死を眠りのようなものと教えています。

イエス様を信じて眠りについた人たちは、輝かしい復活の朝までこの世にある心の痛みや失望から解放され、イエス様の腕に抱かれて安らかに、安全に眠っているのです。

苦しみや悲しみ、思い煩い等すべて消し去られて安らかに眠っているのです。

そして、「死」から、眠りから目覚める、その時の出来事について聖書にはこのようにあります。

「わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない

者とされ、わたしたちは変えられます。」
(コリントの信徒への手紙1・15章51節、52節)

イエス様が再び来られた時、イエス様を信じて安らかに眠っていた死者は、永遠の命をイエス様から賜って、一瞬のうちに変えられて復活すると教えています。

死は眠りです。この眠りは、イエス様が再び来られる再臨の時まで続くのです。

私達は死を恐れる必要はありません。わたしたちの守り手、いのちの道、イエス様に従うことによって、希望をもって生き、死に備え、死を迎えることができます。

聖書は、神様がわたしたちを迎えに来てくださる約束も教えてくれます。

「わたしの父の家には住むところがたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」

(ヨハネによる福音書14章2節、3節)

イエス様に従うわたしたちを天国に迎えてくださる約束です。

聖書は、死も悲しみも叫びも痛みもない永遠の場所を教えてくれています。

私達は、神様が与えて下さる永遠の命という賜り物を受け入れ、不死の希望を叶えることができるのです。

この素晴らしい救いの喜びをご自身でしっかりと手にしていただきたいと思えます。

神様、イエス・キリストとしっかりと結ばれていれば、希望と喜びをもってこれからの人生を歩むことができます。

イエス様は、大きくその御手を広げて招いておられます。

「われに従え」と私達を待っていてくださいます。

「証」～講演会にメッセンジャーとして参加して～

千葉キリスト教会 渡邊 治子

昨年11月、メッセンジャーの一人として講演会に参加しました。選んだテーマは「キリストの再臨」、最初の打ち合わせの時、すぐ近くにあった資料だったのです。

決めたものの時が経つにつれ、このテーマの重要なことを思い知らされ、へこみそうになりました。私たちアドベンチスト最終目的・希望は、キリストの再臨によってもたらされる救いの日・再会・永遠の命なのです。しかし、7月に姉が急逝して、死という眠りや主にゆだねるということを目の当りにして、未熟でも私なりに理解したことを発表しようと決めました。

人類の歴史は、神による天地創造をもって始まり、キリストの再臨をもって完成することを聖書は言っています。再臨の約束は旧新約聖書において何回も出てきます。どのように起こるのかは新約に具体的に記されています。

初臨の時と異なり、キリストは誰にでもわかるように来られます。合図の号令がかかり、神のラッパが鳴り響くとすべての人々にはっきり見える形で天から雲に乗って来られる。……稲妻のようにひらめき渡り……空中にとどまられる……主と結ばれていて救われた者たちは眠りに就いた者から天に挙げられ、空中で主にお会いする……etc. です。

あの日、入院の姉を見舞い、帰り際に「また明日来るから」と手を握って病室を出ました。

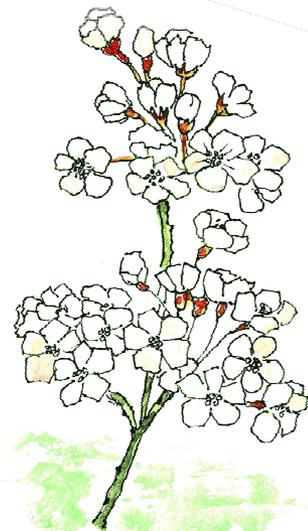
「無理しなくていいのよ」といつも言う姉が「大丈夫よ、また会えるからネ。ありがとう」と。帰りのラッシュにもまれながら何かアレ！という思いが残った言葉でした。

そして、翌早朝、目覚めることなく姉は

眠りに就いたとの報が入りました。看護師さんに「すごく穏やかなお顔でした。」と聞き安心しました。すべてはもう神様にお任せしているからと言っていた姉らしい眠りだったからと思います。再臨の希望を信じているという生き方を、後から行く私に身をもって証ししてくれたと思っています。

メッセージを語る機会を与えられていなかったら、再臨の希望をこれほど体験として心に深く感じられなかったと思います。でも、言葉で伝えるということは、とてもとても難かしかったです。しかし、参加してみて、神様のことに一生懸命になっていると、心に満たされた思いが生まれ、何かの力に後押ししていただいた気がしました。

感謝です！



「天の大争闘」～黙示録における玉座をかけた大争闘～

千葉キリスト教会 井本 良治

『玉座をかけた「天の大争闘」』について、聖書から学んでみましょう。

「さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らの居場所がなくなった。この巨大な竜、年を経た蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者は、投げ落とされた。地上に投げ落とされたのである。その使いたちも、もろともに投げ落とされた。」とヨハネの黙示録12:7～9に記されています。

なぜ天で戦いがあったのでしょうか？その答えはエゼキエル書にあります。

「主なる神はこう言われる。お前はあるべき姿を印章としたものであり、知恵に満ち、そして美しさの極みである」「わたしはお前を/翼を広げて覆うケルブとして造った。お前は神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。お前が創造された日からお前の歩みは無垢であったが/ついに不正がお前の中に見いだされるようになった。」「お前の心は美しさのゆえに高慢となり栄華のゆえに知恵を墮落させた。」

エゼキエル書28:12、14・15、17

火の石の間を歩いていたルシファーの姿は、彼が神の栄光の中にいたこと、聖なる方のそばにいたことを示しています。しかし、ルシファーは自ら進んで神に敵対し、墮落した天使になりました。

そのことはイザヤ書に記されています。

「ああ、お前は天から落ちた明けの明星、曙の子よ。…かつて、お前は心に思った。『わたしは天に上り/王座を神の星よりも高く据え/神々の集う北の果ての山に座し雲の頂に登って/いと高き者のようになろう』と。」イザヤ書14:12～14

ルシファーは高い地位、権力を望みまし

た。それは、神様を知らなかった時の私の思いと同じです。人はだれかから関心を示され、称賛されることに喜びを感じます。

神様を知らなかった時、私の心の中に「人は何のために生きているの？」という疑問が沸き上がってきました。人はやがて死んでしまう。名声や地位、お金があっても、死んでしまったらすべてが無になってしまう。人生の目的が分からず、孤独と死の恐怖におびえ、毎日、死にたいと思うようになりました。

そんな時に、クリスチャンの友人に出会い、聖書に関心を持つ機会が与えられました。ある時、ルカによる福音書23章34節に、十字架上でキリストが、「父よ、彼らをお許してください。彼らは何をしているのか、わからないでいるのです」と祈られた言葉が目にとまりました。

自分をあざけり、殺そうとしている人のために祈るキリストの姿に、「この方の愛は本物だ。この方にすべてをかけよう。僕の経験、思い、知識を一切捨てて、聖書の言葉を僕の価値観として受け入れよう。」と思いました。

それは自分に死ぬこと。がけから飛び降りるような心境でした。

その結果は？私が考えていた以上にすばらしいものでした。孤独と死の不安から解放され、ありのままの自分を神様に受け入れてもらったことの平安を実感し、感謝の思いで一杯になりました。

自分の努力で救いを得ることはできません。キリストがわたしたちの罪のために、身代わりとなって死んでくださった神の愛を信じる信仰によって救われます。

キリストと共に歩む決心をしましょう。

「人生の終活」

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

「終活」という言葉は、一般的には、生前のうちに自身のための葬儀や墓などの準備、残された者に迷惑がかからぬよう生前整理や、相続を円滑に進められるための計画を立てておくこと、などを指しています。

そして、「終活」の意味するところは次の3点が重点課題とされています。

終活一：エンディングノートを書く

終活二：遺言書を書く

終活三：お墓を決める

ポイントは、残された家族がご自分の死後にしなければならない様々なことに対して、必要な情報を整理しておく。ということになります。

ところで、エンディングノートが書かれ、遺言書が書かれ、お墓が決まっていれば、あなたの「終活」は完成でしょうか？

それは、人は「死んで」すべてが終わるのであれば完成と言えるかもしれません。

聖書はこう言っています。

<コヘレトの言葉9章5～6節>

「生きているものは、少なくとも知っている自分はやがて死ぬ、ということ。

しかし、死者はもう何ひとつ知らない。

彼らはもう報いを受けることもなく

彼らの名は忘れられる。

その愛も憎しみも、情熱も、既に消え失せ

太陽の下に起こることのどれひとつにも

もう何のかわりもない。」

これが、肉体の死の現実です。しかし、さらに聖書はこう言うのです。

<テサロニケの信徒への手紙 I

4章13～14節>

「兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のよう

に嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいて欲しい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してください。」

イエスを信じる私たちは、イエスが再び来るとき、イエスと一緒にこの地上より天の御国へと導き出されます。

それまでは、死んだ者は眠っているのと同じ状態です。もちろん、肉体は滅び去っていますので、新しい体が与えられます。

私たちは新しい体、すなわち復活したイエスと同じ体で復活するのです。

これは、神の約束であって真実です。

今日私たちは、人生の終わりに際して、巷では「終活」という言葉がささやかれていることから、人生について非常に重要なことを確認しました。

その最も重要なことは、死が完全なる「終わり」ではないということです。

言ってみれば、「死」は誰もが一度は通らねばならない通過点であって、決して永遠と続くものではなく、キリスト・イエスが再び来られるとき、キリストを信じて眠りについた者は、復活し、キリストと共に永遠の御国へと導き出されるのです。

したがって、真の意味での「終活」とは、決して、エンディングノートを書く、遺言書を書く、お墓を決めることばかりではありません。

いや、むしろもっと重要なこととして、キリストを知り、キリストに結ばれ、キリストを信じて眠りにつく、という、人生で最も重要で大切なことをしっかりと確立することです。

これこそが、人生の真の終活なのです。

「ファミリー・クリスマス会」に寄せて

千葉キリスト教会 クリスマス委員 根本 弘子

12月21日（土）午前中のクリスマス礼拝に続き、午後はファミリー・クリスマス会が開催されました。

教会に初めて来てくれた子供たちにも、一緒に参加し、神様が共にいてくださる喜びを感じてもらえればと、その場でも参加できるヨセフ物語の「劇」を行うこととなり、教会の子供たちとクリスマス委員が、一緒に慣れない小道具作りや、背景の絵を描き、一応形になったのは、本番1週間前でしたが、全員が集まったこともなく、果たして初めての子供たちが参加してくれるのだろうか、不安がよぎる中ナレーション、聖書朗読と落ち着いた声が会堂に流れていくと、堂々としたヨセフの登場です。

なんとそれからは、舞台からはみ出るほどの出演者たちのおかげで、物語はどんどん進みあつという間の時間でした。木更津教会からの子供さんも、参加して下さり良き交わりが出来ました。

この他にも、子供の指揮による全員での賛美、また大いに笑いながら子供から高齢者までが楽しく体を動かし楽しんだ、山本兄によるアブラハムと7人の子供のダンスなど、神様からの豊かな祝福と恵を子供たちと一緒に味わえた時間でした。

尚、このために、多くの教会信徒が賜物を持って協力をしていただきましたことを、紙面をお借りしてお礼と感謝をもうしあげます。



吉田翔兄の司会と根本侑奈ちゃんの指揮による会衆一同の「いつくしみふかき」の賛美で、クリスマス会がスタートしました。

当日、その場で参加する、『参加型「劇」ヨセフ物語』に多くの子供たちが出演してくださいました。楽しい一時を持つことが出来ました。



菜食料理賛歌！

千葉キリスト教会 平尾 慧美

【菜食料理賛歌】

菜食料理は おいしい
菜食料理は 健康だ
神様が下さった 食べ物だ。

菜食料理は おいしい
グルテン・ミート、ソーイ・ミート
神様が下さった 食べ物だ。

菜食料理は たのしい
野菜、くだもの、木の実たち
神様が下さった 食べ物だ。

まもなく、百回を迎えるという、千葉教会の菜食料理教室で、私はグルテン・ミート、ソーイ・ミート（大豆たんぱく）の料理を担当しています。

グルテン・ミート、ソーイ・ミートは、難しい料理ではありません。ただ、ちょっと下準備を加えると絶品になります。

料理教室は、主婦歴・主夫歴豊かな友人たち集まっています。

今や、ア・ウンの呼吸で働き、手の足りない所へはサーッと行って助け舟となり、毎回おいしい料理が仕上がります。

去年は、NHKの“ためしてガッテン”の番組からインターネットで＜三育フーズ＞を知り、更に、千葉教会の料理教室の案内を見て友人を誘って、この料理教室に参加してくださっている方もいらっしゃいます。

楽しい料理教室で腕を磨き、健康を目指しましょう。

最近のメニュー&レシピを紹介します。

【グルテン・ミートの回鍋肉】

「材料」

☆グルテン・ミート：小1缶☆キャベツ：1/2個、☆赤唐辛子：1本☆ニンニク：1カケ☆ショウガ：1カケ☆片栗粉・

サラダ油・☆塩… 適量

「合わせ調味料」

☆味噌：大さじ2+1/2弱（40g）☆しょうゆ：大さじ1 ☆塩：小さじ1/2☆紹興酒又は料理酒：大さじ1（中国風）☆スープの素：小さじ1/2☆熱湯：カップ1杯

「作り方」

①グルテン・ミートは5mm位の削ぎ切りにして下味をつけておく（ニンニク、ショウガをすり下ろして醤油を混ぜた汁に10分ほど漬ける）。

②フライパンに油大さじ2位を熱し、①を片栗粉でまぶして、焼き上げておく。

③キャベツは4cm角に切る（太くて硬い芯などは味噌汁に使う）。

④ニンニク、ショウガはみじん切りにする。赤唐辛子は種を取り小口切りにする。

⑤合わせ調味料の味噌から紹興酒までをボウルに入れ、スープの素を分量の熱湯で溶かして加え、よく混ぜる。

⑥中華鍋に湯を沸かして、サラダ油、塩少々を入れ③のキャベツを入れ30秒～1分茹でざるに上げて湯を切る。

⑦中華鍋にサラダ油大さじ1、④のニンニク、生姜、赤唐辛子を入れて弱火にかけ香りが立ったら⑤を加えて煮立たせ、片栗粉大さじ2を同量の水で溶いて加え、とろみを付ける。

⑧⑦に②のグルテン・ミートと⑥のキャベツを加え、全体を混ぜて味を絡めて器に盛る。

出来上がった盛り付け直前の「グルテン・ミートの回鍋肉」



第6回「チャレンジクッキング」を終えて

千葉キリスト教会 児童伝道部長 丸山 敦子

2019年から児童伝道部で新たに始めたチャレンジクッキング、この一年疾風のように駆け抜け、その都度神様の守りの御手に導かれ無事に6回目を迎えられたことは真に感謝であります。

子供たちの心に自主の思いが芽生え成長したことは、大きな収穫の一つであったと児童伝道部一同励まされて最後まで行うことができました。又、チラシ作成や配布することで、子供たちの秘められた力を見ることができました。信仰の従順さを発見することができたことも大きな収穫でした。

今回も参加してくれた子どもの中で、カボチャのプディングならできるよとの声に後押しされ、旬の野菜のカボチャを蒸すところから始め、カボチャと豆腐でできる健康に良いお菓子を作ることができました。

工作は12月21日のクリスマスで予定している参加型朗読劇「ヨセフ物語」の背景や小道具造りを計画しました。チャレンジ

クッキングの目標である“何かを創り出す”ことにチャレンジすること、挑戦する姿勢に良い影響をもたらすことができると思い、11月のチャレンジクッキングで作ることになりました。

自分たちの手で描いた羊と山羊。自分たちの手で作った月や星。衣装で使う紐等、手分けして創り上げることができました。誰が何を作るのか決めていませんでした。しかし、神様はちゃんと適材適所をご存知でした。それぞれ得意なところに自ら足を運んで背景と小道具を創り上げることができました。共にいる人と心を合わせて何かを造ることは神様の存在を知る良い機会になることを祈りつつ、2020年もこの活動を続けていきたいと思えます。

2020年は参加してくれる人たちと神様の大きい御業を体験し、互いに大人も子どもも成長できるような交わりをしていきたいと思えます。

次回チャレンジクッキング

日時:2020年5月24日(日)13:00~

内容:・お菓子は、お楽しみに。

・工作は、折り紙で作る怪獣。



出来上がった「カボチャのプディング」を盛り付けている処です。



クリスマス会での参加型朗読劇「ヨセフ物語」に向けて羊の背景を創りました。

恵みの「クリスマス・コンサート」

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

2019年12月22日午後2時より、千葉教会礼拝堂にて第10回チャーチコンサート「クリスマスコンサート」が開催されました。

当日は心配していた雨にもならず、大勢の方々がお越し下さいました。クリスマス飾り付けが美しい礼拝堂、そしてバルコニー席も満席となり、クリスマスを心からお祝いするコンサートはスタートいたしました。

ブラスアンサンブル“ダイス（正六面体のサイコロ）”の6名による金管楽器の演奏は、オープニングにふさわしく力強く高らかに天にも届く響きとなり、“アヴェ・ヴェルム・コルプス”などが演奏され、一瞬にして聞いている一人一人の心を捉えたのではないのでしょうか。

教会の枠を超えて神様を賛美したいと集まったメンバーで構成されているヘブンズコワイヤーは、聖書のみ言葉から“神はそのひとり子を”と“詩篇メドレー”の2曲、そしてクリスマスキャロル5曲を賛美いたしました。

会衆一同は、指揮者森恵子さんのリードのもと、ヨハネによる福音書3章16節、詩篇110編・117編を朗読し、み言葉を味わいながら、心を込めた賛美の歌声を

聞く事が出来ました。神様のみ言葉は、清らかで美しいメロディーとなって、聴衆の皆様を潤したのではないかと思います。

つづいて、森田牧師は『このクリスマスの日、神様の愛を頂いて輝いてほしい！』と、愛あふれるクリスマス・メッセージをして下さいました。

後半は、ピアニスト木田左和子さん、ヴァイオリニスト山下真澄さんのお二人の演奏を楽しむ事ができました。中でも、お二人の二重奏による美しい、演奏時間30分という大曲“ヴァイオリンソナタ イ長調（フランク作曲）”の演奏に心をうばわれました。水を打ったような静かな礼拝堂に、ヴァイオリンとピアノの音色が互いに楽しむように流れ出てとけ合い、その豊かな旋律は聞いている一人一人に至福のひとときを与えて下さいました。

コンサート終了後のお交わりのひとは、いつものように手作りカレー、手作りケーキ等を味わう幸せをいただきました。心も身体も満たされて、神様に感謝したクリスマスの日でした。

音楽の素晴らしさを、演奏者と聴衆が共に分かちあえる、チャーチコンサートの恵みに心からの感謝を奉げます。

「ヘブンズコワイヤー」
のメンバー



3月、4月、5月の行事

◇ 春の講演会 於：千葉キリスト教会礼拝堂（毎回午前11時より特別礼拝）

- ♣春の講演会①☆日時：3月21日(土) 13時～
 ♣春の講演会②☆日時：5月9日(土) 13時～
 ♣春の講演会③☆日時：5月16日(土) 13時～

講演題など詳細が決まりましたら、
 別途チラシ等でご案内申し上げます。

【ご留意・ご承知ください】

新型コロナウイルスの感染状況を勘案し、現在教会では、全ての集会において、マスクの着用、手洗い・アルコール消毒、体調の悪い方の自主的参加見合わせ等の予防対策を講じておりますが、今後の感染状況に応じて、集会の延期・中止などの適切な対応を取らせて頂きます。ご承知ください。

□4月26日(日)のチャーチコンサートは中止とさせていただきます。

□その他の行事・集会についても、中止・延期をさせて頂く場合があります。ご承知ください。

毎月の定期集会（開催場所：千葉キリスト教会 集会室）

◇ 菜食料理教室

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時。今年は3月はお休みです。

☆参加費：500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時：毎月、第二(黙示録)、第四(創世記)水曜日に行っています。午前10時～11時30分

☆講師：千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時：奇数月の第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分。今年は3月はお休みです。

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができると願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

◇ チャレンジクッキング

☆日時：奇数月の第四日曜日。午後1時～3時。今年は3月はお休みです。

☆対象：子供の皆様（小学生以下は保護者の御同伴をお願いします。）

☆どなたでも御参加下さい。工作づくりもあります。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：午前9：15～9：25

☆聖書の学び：午前9：25～10：40

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前11：00～12：00

☆シャローム若葉虹の家：午前9：30～10：10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしております。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り：3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話：043(231)3620

FAX：043(231)1634

Email：sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ：

sda-chiba.org

★発行責任者：

磯部豊喜 牧師

★スタッフ：

酒井 闕 吉田 敏英

綿引 秀子 太田 博司